

目次

提言の要約	1
はじめに	2
第1章 ちょっと気になる子	3
1 ちょっと気になる子どもたち	3
2 発見・支援体制	4
3 早期発見と早期支援の効果について	5
4 支援につながる子、つながらない子	7
5 なぜ支援につながらないのか	9
第2章 政策提言	10
保護者心理へのアプローチ	10
〔家庭の扉をひらく機会をとらえる ～心のバリアフリー化～〕	10
(1) 療育を取り入れた「遊びのプログラム」の実施	11
(2) 遊びのリーダーの養成	12
(3) 支援体制の整備 ～横から縦に～	13
おわりに.....	14



提言の要約

現状と問題点

☆発達に対する支援が必要な「ちょっと気になる子」が、早期に適切な支援を受けることで、良い変化をもたらし、大きく伸びていく可能性が高い。

☆そのため、各自治体ではそのような子を早期に発見・支援するための体制を整えてきている。

★それにも関わらず、保護者の認識不足・拒否などにより、支援に繋がっていない子どもたちがいる。

★発達への支援が遅れるほどに、そういった子どもたちが年を重ねるに従って、さらに問題行動が現れてきてしまい、保護者や支援者の負担が大きくなっていく。



課題

◇行政の支援に繋がろうとしない保護者の心理を踏まえた上で、「ちょっと気になる子」の早期発見・支援を行っていく必要がある。



政策提言

**家庭の扉をひらく機会をとらえる
～心のバリアフリー化～**

